

「HANDA市民討議会 2024」報告書

HANDA市民討議会実行委員会

令和6年12月

目 次

1. 実行委員長あいさつ	1
2. 「HANDA市民討議会 2024」について	2
(1) 概要	2
(2) 運営組織	2
3. 運営実績について	3
(1) テーマ選定	3
(2) 参加者選定	3
(3) 事前勉強会	3
(4) 討議会	4
4. 結果と提言	5
(1) グループ討議の結果	5
(2) 提言内容	19
5. 「HANDA市民討議会 2024」の次回に向けた検討事項	21
(1) アンケート結果	21
6. 実行委員感想	33

資料1. タイムスケジュール

資料2. 事前勉強会資料

資料3. アンケート様式

1. 実行委員長あいさつ

令和6年9月29日、半田市として2度目の「市民討議会」を開催しました。

HANDA市民討議会は、無作為抽出による公募に承諾し参加して下さる市民の皆様が、必要な情報を等しく受け、地域問題など政策課題を討議のうえ合意形成の為された意見を市政に反映させるための広聴手法として、半田市・市民委員・(公社)半田青年会議所で「HANDA市民討議会実行委員会」を組織し、相互に協力して開催することができました。

本年は開催予定日に台風の予報となり、開催日の変更がありましたが、当日は多くの、また幅広い世代の市民の皆様にご参加賜り、楽しみながらもしっかりと考え、充実した内容の討議をしていただくことが出来ました。

討議会での提案につきましては、実行委員会で提言書として取りまとめ、半田市長へ提出するとともに、市民の皆様にご公表してまいります。

この討議会が、市民参画機会の一つとして、また、自分たちのまちを自分たちで良くしていこうという住民自治意識の醸成や関心を高めるきっかけになっていただけると幸いに存じます。

本事業の開催に至るまでに、事務局として多大なご尽力をいただいた半田市市民協働課の皆様、様々な視点から意見をいただき当日の進行を行ってくださった市民委員の皆様、広いネットワークや培った経験から様々な情報を提供いただいた(公社)半田青年会議所様にご理解とご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。

そして、この市民討議会にご参加いただきました市民の皆様にご心より厚く感謝申し上げます。ありがとうございました。

HANDA市民討議会実行委員会委員長
平林 樹明

2.「HANDA市民討議会 2024」について

(1) 概要

「HANDA市民討議会 2024」は、市民と行政が地域に関する情報を共有し、地域が直面している課題を「みんなの課題」と認識し、市民と市民、市民と行政と一緒に解決策を考え、市政に反映することを目的とした新しい仕組みとして、半田市では令和5年度から実施している取組みである。

これまで市政に参加する機会の少なかった市民から意見を抽出し、市民参加のすそ野を広げるため無作為抽出で参加者を募り、参加者がテーマに対する基本的な知識を平等に持ち、討議に参加できるように、事前勉強会で討議会の趣旨やテーマについて情報提供を行い、討議を実施した。

また、討議会実施後には、討議内容を報告書として取りまとめ公表するとともに、市民が考えた地域の課題解決策として市政へ提言する。

(2) 運営組織

市民討議会は行政主導ではなく、市民が主体となり、公平・公正・中立な市民討議会とするため、行政は中立的な立場で関わり、市民等で組織する実行委員会形式で運営を行う。

HANDA市民討議会実行委員会は、地域課題の解決に繋がる取組みを実践し市民討議会を開催している先進地域の青年会議所とのネットワークがあり、実績を含めノウハウ等が共有できる（公社）半田青年会議所を中心として、公募市民委員等と半田市で組織した。

また、（公社）半田青年会議所と半田市とで「HANDA市民討議会に関する協定」を締結し、相互協力して協働で取り組んでいくこととした。

◆実行委員会活動実績

- 第1回 4月26日：委員委嘱、参加者募集、テーマについて
- 第2回 5月15日：テーマ、情報提供方法、参加者募集について
- 第3回 5月30日：討議タイトル・テーマの選定、参加者募集、情報提供について
- 第4回 6月11日：事前勉強会の内容、討議方法について
- 第5回 6月25日：事前勉強会、討議会の実施方法について
- 第6回 7月23日：参加者決定、事前勉強会、討議会の実施方法について
- 第7回 8月6日：事前勉強会、討議会の実施方法について
- 第8回 8月17日：事前勉強会
- 第9回 9月29日：討議会
- 第10回 10月17日：提言書、次年度実施方法、次年度テーマについて
- 第11回 11月5日：提言書提出、懇談会、次年度実施方法、次年度テーマについて
- 第12回 12月18日：報告書、次年度実施方法、次年度テーマについて

3. 運営実績について

(1) テーマ選定

討議テーマについては、本市の課題を共有した施策の提言につなげるため、課題に即した市民が関心を持ちやすいものとし、実行委員会で協議のうえ選定することとする。

令和6年度は、少子高齢化・核家族化が進む昨今、問題となっている空き家をテーマに取り上げた。半田市では、空き家等対策計画に基づき対策を進めているが、加速的に進行している空き家の発生について、現在の取り組みでは追いつけないという危機感があり、行政が抱える現状や問題を市民に認識してもらい、住民目線で討議することで、市民の関心を高めることを目的とした。

◆テーマ

『知っていますか？空き家問題

～みんなで考えよう、空き家を増やさないためにできること～』

(2) 参加者選定

半田市内在住の16歳から69歳の約3,000人の方に無作為抽出で案内を送付し、72人から参加承諾があり、年齢、性別等を考慮し50人を選定した。

当日の参加者は、事前勉強会41人、討議会28人で、両日参加は21人であり、討議会の開催が台風の接近で延期となったことにより参加者数が減少した。

(3) 事前勉強会

◆日時・場所

令和6年8月17日（土）9時30分～12時30分：半田市役所大会議室

◆実施内容

事前勉強会では、参加者がテーマに対する基本的な知識を持ち、討議に参加できるよう、専門家や半田市建築課職員からテーマに関する必要な情報提供を行った。（資料2参照）

【情報提供①】

「空き家の問題点、現状」吉田貴彦

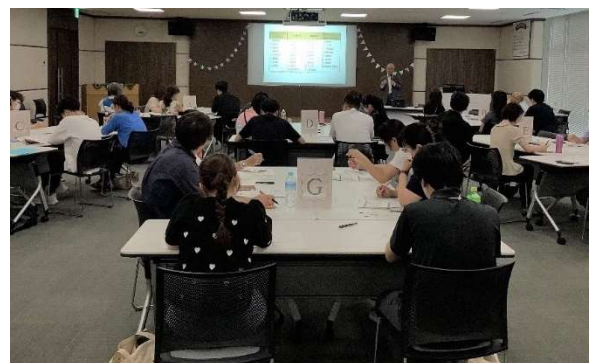
【情報提供②】

「行政職員と空き家マイスターのトークセッション」

①半田市の現状と取組み

②事例紹介

③行政からみる空き家問題



◆情報提供者

- ・吉田貴彦（愛知県宅地建物取引業協会「空き家マイスター養成講座」講師）
- ・宗森正樹（半田市建築課職員）
- ・石川健太郎（半田市の不動産業・空き家マイスター）

（４）討議会

◆日時・場所

令和6年9月29日（日）9時30分～16時：半田市役所大会議室

※当初の開催予定日は8月31日（土）であったが、大型台風の接近により延期とした。

◆グループ構成

円滑な討議を実施し、参加者の意見集約や合意形成をするために、少人数のグループごとに討議を行い、各グループにファシリテーターを配置した。

全体ファシリテーターを1人、1グループは年齢構成を考慮した参加者約5人ずつ、ファシリテーターを各グループに1人配置し、6グループ作った。ファシリテーターについては一般社団法人SDGs designが担った。

◆討議の方法

【討議①課題を考える】

- ①空き家を見つけたら？
- ②自分はどうしてた？（見て見ぬふり？
物騒だな～？壊れないか不安だな～）
- ③誰かに相談した？
- ④問題が何か考えてみよう！
（自分が困ること・家庭が困ること・地域が
困ること・未来が困ること）

付箋に書き出した後グループ内で発表し、解決したい課題をグループで決めた。

【討議②解決策を考える】

「みんなの意識が向くようにするにはどうしたらよいか。」「これからのために何が今必要か。」の2つの視点で考え、付箋に書き出した後グループ内で発表し、政策をグループ内で決めた。

【討議③】

討議①、②で決めた課題や政策をグループ内で模造紙にまとめていき、発表方法を決めた。

まとめには入れないが、おもしろい意見など残したい意見も集約した。

【発表】

グループごとに討議結果について3分で発表。

【投票】

1人1票とし、必要だと思う政策に投票。
残したい意見に対して、1人3票で投票。

【結果発表】

投票数上位4位までを発表した。
（同点1位2チーム、同点3位2チーム）



4. 結果と提言

(1) グループ討議の結果

討議①まとめ

①空き家を見つけたら？ ②自分はどうしてた？（見て見ぬふり？物騒だな～？壊れないか不安だな～） ③誰かに相談した？ ④問題が何か考えてみよう！（自分が困ること・家庭が困ること・地域が困ること・未来が困ること）	①空き家を見つけたら？②自分はどうしてた？③誰かに相談した？ <何もしない> ・実害がなければなにもしない ・他人事だから深く考えない、見て見ぬふり ・見ても全く気にならなかった ・そもそも話題にならない（きっと誰かが管理しているだろうと興味が向かない） ・不快だと思う状態の空き家を見た事がない <気にかける> ・気にかけるようになった ・新聞テレビをよく見た ・空き家確認する（場所や周辺状況） ・散歩で気付く、建物の姿、形と強度 ・どうして壊れないか見る ・物騒、危ない、汚い ・壊れないか不安 ・地震等で道を塞がないか <考える> ・売地か私有地、見て分からない ・住んでいた方はどうしたのだろう ・相続人さんの手続きはできているのかな ・近所で見かけたら、空き家周辺の探索 ・遠くに見かけたら、高齢者施設を調べる ・この先どうする ・お店が売りに出ている、後継者がいない（お店） ・ビジネスになるのかな ・お金がかかりそう（維持するのも壊すのも） ・漠然と不安を感じていた（変なうわさがたっていた） ・有効活用するためにどうしたら良いか、需要と供給 <所有している> ・所有している、自分の家にもある ・我が家や実家も他人事ではない <相談しない> ・（当事者でなければ）相談しない ・確証がないから相談するまでに至らない <話題にする> ・親、家族と話し、どう対処するか一緒に考える ・親や友人と空き家について話題にする
---	---

- ・家族に知識がないので話にならない、話が進まない
 - ・職場の先輩（他の市でも結構ある）
- <調べる・報告する>
- ・ネットで調べた
 - ・新物件でてるか確認
 - ・持ち主に知らせた
 - ・（自分の地域なら）区長に相談
 - ・市役所へ報告
 - ・専門家、税理士、大学の先生に相談、国会議員へ報告
- <行動する>
- ・誰かいるか聞いた
 - ・隣を（隣なので）売ってもらえるか交渉した（された）
 - ・できるものから活用策を試している

④問題が何か考えてみよう！（自分が困ること・家庭が困ること・地域が困ること・未来が困ること）

- <犯罪>
- ・犯罪につながる、火事（放火）
 - ・不法滞在や犯罪の拠点として使われてしまう可能性あり
- <倒壊・防災・害虫>
- ・家が古い、建物が壊れる（震災時）
 - ・防災上問題がある
 - ・害虫（虫・はえ・蚊）、動物（たぬき）が気になる
 - ・木が倒れないか心配
 - ・道路が暗く危ない
 - ・ゴミ屋敷化する
- <景観>
- ・見苦しい、景観がよくない
 - ・衛生的ではない
- <地域>
- ・空き家だらけの町に住みたいと思う人は少ない（町の魅力が減少）、（未来）居続けたくない（地域住民減少）
 - ・空き家周辺の住宅の価値が低下する
 - ・空き家が増えると寂しい、活気がなくなる
 - ・住みにくい
 - ・道がない所は周りの協力が必要
 - ・子供の通学路に空き家があると不安
 - ・若者のたまり場になる（大きい空き店舗とか）
 - ・防犯対策、地域で共有、誰が管理しているか
 - ・子どもが怖がる
 - ・コミュニティがなくなり治安が悪くなる
 - ・隣組が機能しない

	・草むしり、周囲、近所、公園、市政が潤わない ・電線に木の枝がからまって鳥が巣を作っているかも <認知度低い> ・市民の認識が低い、多くの人は興味がない ・空き家が多いという実態は討議会で知った ・誰に何を相談すれば良いのか分からない ・空き家の対処にどんな手段がある？（取り壊し、活用、売る、貸す等・・・） ・啓蒙は簡単だが実効性のあることはどうしたらいいか ・数十年後どうなっているか ・壊した先のことが分からない（メリット含め） <個人の問題> ・空き家問題は家庭の問題（他人がどう入り込む？） ・家が手放せない ・家や土地がもったいない ・“最期”まで家がないと暮らせない ・家を建てる 때가 1 番のターニングポイント（家を建てる時市は必ず関わるから（建築申請）） ・これから起こるライフイベントをイメージできない ・子供達が成長して自分にも空き家の心配 ・人が離れる時が最後の分岐点になる ・相続人が増えないうちに行動することが必要 <費用> ・空き家の処分に費用が、更地にしたら税金がかかる ・新しく住み始める人に税金や給付金などを優遇する <手続き> ・当事者、身内など携わってから知る事情、手続き ・所有者と納税者が違う等複雑 ・財産のふりわけ ・行政執行の判断基準の見直し <活用方法> ・どう活用するか ・新しい人、若い人にすんでもらう（お金がないから買ってくれない） ・海外の方には買われないか（文化の違いが・・・） <行政> ・執行が必要な物件が増え、税金がかさむ ・使える土地が減る、土地は市の財産 ・公共交通機関の時間帯、本数の見直し（ごんくるバスが不透明なので）
--	--

討議②まとめ

- ・課題解決するためにどうしたらよいか
- ・みんなの意識が向くようにするにはどうしたらよいか
- ・これからのために何が今必要か？

<周知・関心>

- ・空き家があると何が問題なのか知ってもらう
- ・当事者意識（見る、関わる、メリット）
- ・ウォークラリー（手段）町を知る（ぼく、わたし）※お土産有り（参加率をあげるため）
- ・たのしい勉強会 “宝さがし”、“フリー素材”
- ・「古民家に住む」（効果）をブームやトレンドにする（ポジティブイメージ）
- ・芸能人を呼んで参加してもらう
- ・マンガ、絵本でみんなに知ってもらう、作者を公募
- ・ドラマ、ドキュメンタリーを作る（目指せ山車ドラマ）
- ・TV番組に取り上げてもらう、CM作成
- ・芸能人に解体を一緒にやってもらう
- ・市民にエキストラを募集する
- ・関心を向けるワークをしこむ
- ・市民にスタッフ協力を呼びかける
- ・「空き家」という言い方をやめ、別の名前を考える（つかみ）
- ・夏休みの宿題でポスター等コンテストを取り入れる
- ・学校での住んでいる所のマップ作り
- ・自治体の取組についての広報を工夫する
- ・YouTube 等広告 IP アドレスでローカライズされている
- ・高齢者になる前に知らせる方法として、公民館利用者に空き家問題を広報

<自分ごととして考える>

- ・安価で住める所（集団で住める、ひとり暮らし専用）
- ・知人が近くにいるので離れられない
- ・お仏壇、お墓をしまう→これまでのつながりがなくなると思っている
- ・縁起でもないと言わずに最期の話をする
- ・今まで通りの生活ができなくなった時の事を考える
- ・“最期” どうしたい？を受け止めて記録して管理する
- ・手放す理由を作る
- ・事前に相続を親と話合う

<地域で考える>

- ・温故知新（世代交流）
- ・周辺市民が活用策を決める
- ・子供の通学路
- ・独り住まいの家に地域の人に関心を持ってもらう
- ・散歩している人を巻き込めるウォークラリー

- ・近所付き合い、人間関係の構築
- ・ボランティアの募集
- ・街づくり参加
- ・コミュニティを作る
- ・地域の魅力向上
- ・相互援助
- ・子供会への参加率
- ・地域イベントの開催

<市民からの情報収集>

- ・空き家報告の手段を増やす、(専用) ポストを作る (SNS も活用)、再利用案も投稿
- ・ここら辺に公園や広場が欲しいという意見を言ってもらう
- ・住民にアンケート (どのように活用するか方向性を決める)
- ・意見を可視化する
- ・成功事例の共有
- ・解体や改修いくらかかるかの例をやった人に示してもらう
- ・空き家が増えた結果行き着く先を現役世代に伝え、情報提供を求める (例) 転入者に説明する
- ・住みやすい街にするためには、というテーマで市報に募集する
- ・中学生・高校生の柔軟でユーモアある意見を求める

<空き家の情報提供>

- ・空き家情報を見える化する
- ・私有地の公園化をPR (節税)
- ・解体や改修で信頼できる業者 (市内の) リストを作る
- ・解体の条例
- ・予め準備しておけるための情報 (お金)
- ・避難経路の確認 (途中に空き家があると・・・?)
- ・専門家と市民をつなぐ窓口、しくみ
- ・空き家を手入れする仕組み
- ・活用方法、放置した結果を提示する (知ってもらう)
- ・お金、法律対応のサポート
- ・空き家に税金を使うことを (市民に) 伝える
- ・新しい制度や手続き方法の勉強会を工夫して伝える
- ・管理サービス、相談サービス、紹介サービスがあれば
- ・ハザードマップ
- ・公民館や市役所等でセミナーや勉強会を行う
- ・セミナー、SNS の発信 (子供、孫世代のアピール) (高齢者にハードルが高い)

<相談先がない>

- ・窓口は市役所
- ・建築家の担当人員数を増やす、窓口を増やす
- ・担当部署名を分かりやすく
- ・気軽に相談できる
- ・ケアマネさんに聞いてもらう
- ・市で空き家キャンペーンを不動産屋と協力してやる
- ・地域とのコミュニケーション
- ・相続先の認知

<空き家について話し合う場がない>

- ・区単位で空き家について話し合う場をつくる
- ・パートナーシップの構築
- ・問題を共有する場、セミナーの場を作る

<災害時被害が大きくなる>

- ・対応する優先順位を主要道路近くを高くする
- ・空き家が少なくなればいい
- ・どこが空き家になっているのか把握する事が必要

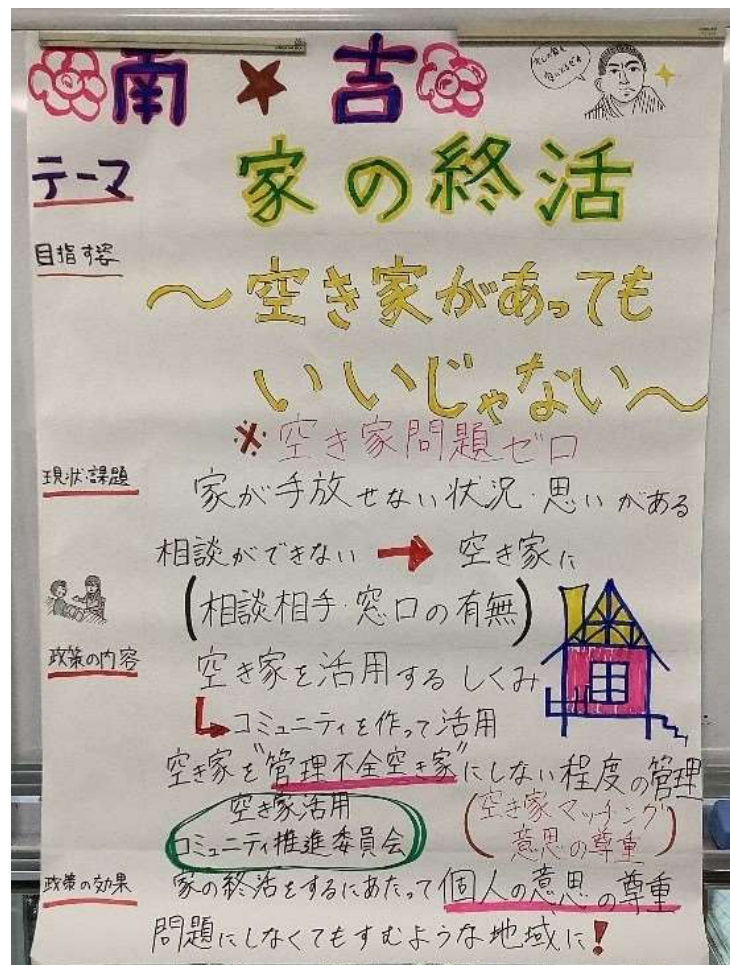
<活用>

- ・空き家の情報を集めて不動産屋に流す
- ・不動産屋に相談（売れる、売れないを聞く）
- ・（他地域での）活用成功例を載せる
- ・活用例から自分の場合を考える
- ・外国人就業者を雇う会社へ貸し出す（管理者が明確）
- ・移住者を募る
- ・空き家の活用で借りたい人と持ち主と市がとりつぐ
- ・周知、協力者にメリットを
- ・高齢者施設に一部業務委託
- ・寄付
- ・町内会などで管理→貸出→利益
- ・空き家活用したい人を探す
- ・教育施設、保育
- ・別荘
- ・アトリエ、工房、伝統工芸
- ・お店
- ・レンタル
- ・文化（祭りとか）
- ・おじいちゃん、おばあちゃんとふれあう、集う場
- ・各家庭への見守君の無料貸し出し（補助）

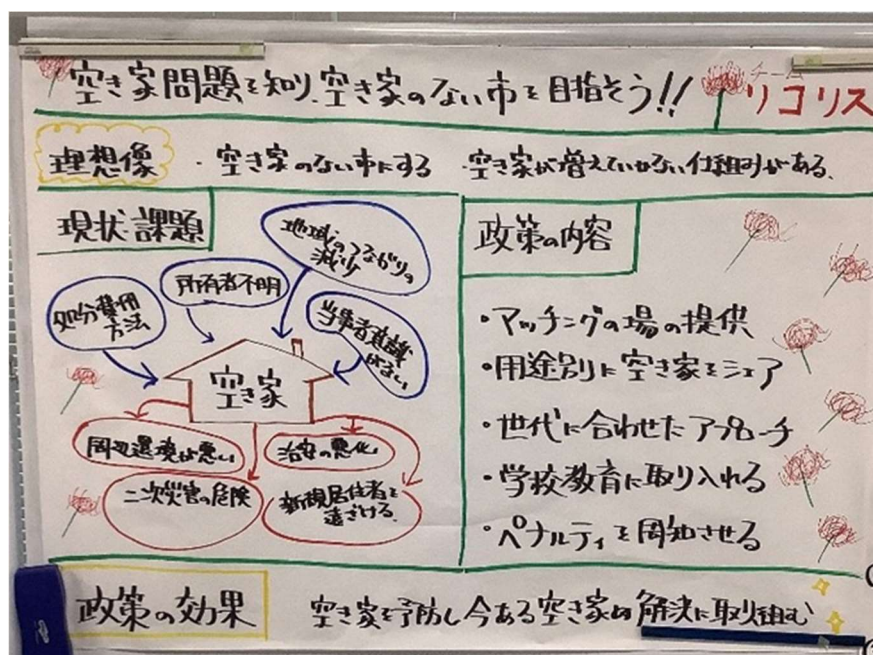
	・中古住宅の魅力向上 ・設備の最新化 ・キャッチボールできる所を作る <費用> ・リフォーム補助 ・住民税など税金優遇 ・相続登記から一定期間経っても放置されていたら更地分の固定資産税を取る ・お金の貯蓄 <住みやすいまち> ・ＪＲや名鉄まで１０分範囲外の公共交通の利便性（認識） ・高齢者が住みやすい市 ・病院に行きやすい ・買い物がしやすい ・必要なサービスが受けやすい（デイケアサービス） ・雇用創出 ・就業の魅力向上 ・企業誘致 ・学童保育の充実 ・魅力発信コンテスト ・高校など、これから１０～１５年後に家庭を持つ世代に現状と半田市に住むメリットを伝える ・半田市の税金を少し安くして住みやすい市にしてほしい ・安全なまちになる <その他> ・システムの状況把握（空き家になるときの傾向分析と把握） ・空き家の片付けを交通違反者にかせる（アメリカの違反者ボランティア） ・相続が予想される世帯にデメリット（空き家の）活用のメリット援助→動いてもらう ・空き家の価値が下がらないようにする ・制度づくり
--	---

討議③「提案まとめ」

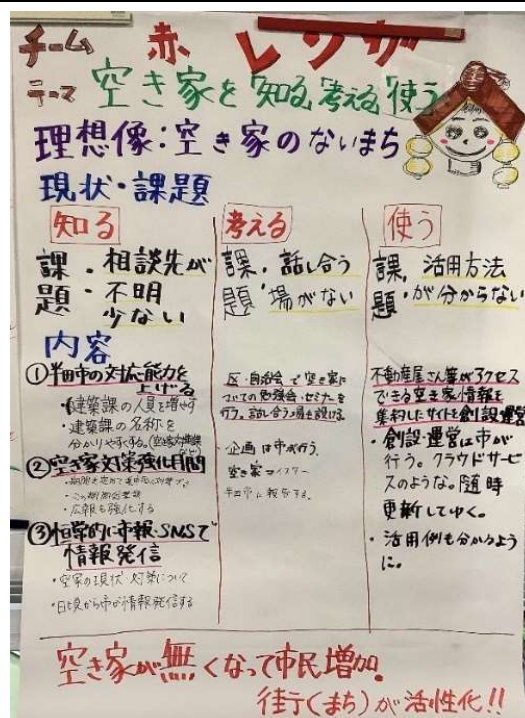
グループ名	南吉
投票数	7票
テーマ	家の終活
目指す姿(理想像)	空き家があってもいいじゃない ※空き家問題ゼロ
現状・課題	家が手放せない状況や思いがある、相談ができない（相談相手や窓口の有無）という現状から空き家になってしまう。
政策の内容 (課題解決策)	空き家を活用する仕組みとして、コミュニティ（空き家活用コミュニティ推進委員会）を作って、家を大切にすることについて話し合ったり、空き家を活用したい時に利用者とのマッチングを行い、「管理不全空き家」にしない程度の管理を行う。
政策の効果	家の終活をするにあたって、個人の意思を尊重し、空き家はあってもよいが、それを問題にしないでよい地域になる。



グループ名	リコリス
投票数	7票
テーマ	空き家問題を知り、空き家のない市を目指そう！
目指す姿(理想像)	空き家のない市にする。空き家が増えていかない仕組みがある。
現状・課題	処分費用や方法がわからない、所有者が不明、地域のつながりの減少、当事者意識がない現状があり、周辺環境や治安の悪化、二次災害の危険、新規居住者を遠ざけるといった課題がある。
政策の内容 (課題解決策)	①マッチングの場の提供 家を処分したい人と利用したい人とをマッチングする場を作る。 ②用途別に空き家をシェア 音楽ができる場や学生が集まる場、赤ちゃんが遊べる場など目的別に利用する。 ③世代に合わせたアプローチ 高齢者なら公民館、若い世代なら SNS を活用したアプローチをする。 ④学校教育に取り入れる 子供に宿題として与えることで、親や祖父母の世代にも子供の視点でアプローチをする。 ⑤ペナルティを周知させる 空き家を放置することでデメリットがあることを周知し、処分する意識を高める。
政策の効果	空き家を予防し、今ある空き家を「管理不全空き家」としないよう、解決に取り組むことができる。



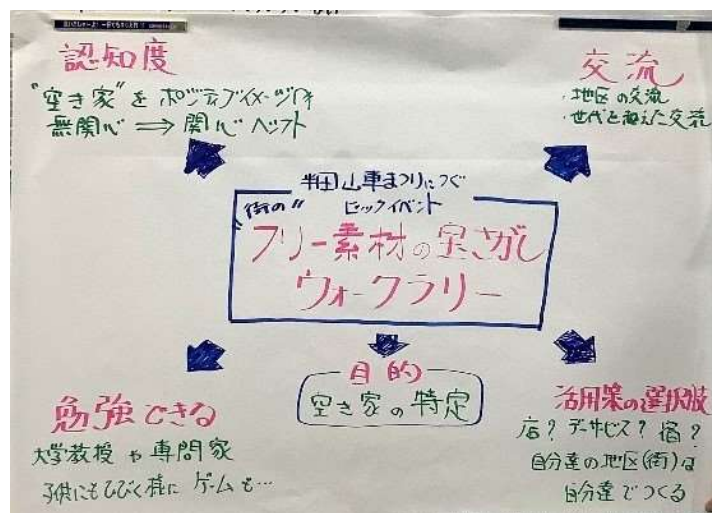
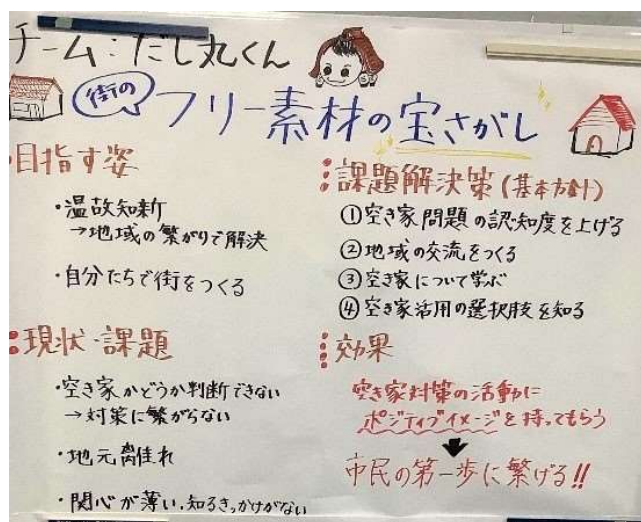
グループ名	赤レンガ
投票数	4票
テーマ	空き家を「知る」「考える」「使う」
目指す姿(理想像)	空き家のないまち
現状・課題	「知る」相談先が少ない、不明。 「考える」話し合う場がない。 「使う」活用方法がわからない。
政策の内容 (課題解決策)	「知る」 ①建築課の人員を増やす、課名をわかりやすく（空き家対策課など）し、半田市の対応能力を上げる。 ②空き家対策強化月間とし、期間を定めて、名義変更など手続きの費用の助成、広報の強化など集中的に対策する。 ③空き家の現状や対策について、市が恒常的に市報やSNSで情報発信をする。 「考える」 区や自治会など地域で勉強会などを行い、話し合う場を設け、当事者意識を持ってもらう。 「使う」 不動産業者などがアクセスできる空き家情報を集約したサイトを市が創設、運営し、活用機会を増やす。
政策の効果	空き家が無くなって、市民が増加し、まちが活性化する。



グループ名	HANDA CITY
投票数	4票
テーマ	半田の空き家をバズらせよう！
目指す姿(理想像)	全世代が空き家問題を知り、話し、考える
現状・課題	興味がなく知らない現状があり、自分たちにどんな困り事が起きているかイメージできなく、問題に直面した時にどうしたらいいかわからないという課題がある。
政策の内容 (課題解決策)	①身近で楽しく知ってもらう PR 方法として、空き家の発生から簡潔までをドラマ化や漫画、絵本化し、解決のための方法やかかる金額、制度などを楽しく知ることができる。 ②みんなの意見や困り事を共有できる仕組みとして、ポストやデジタルポストの設置やSNSを開設し、空き家の情報や解決事例などを投稿する。
政策の効果	空き家に関する情報が楽しく自然と目に入ってくることにより、話題になり、空き家の処分や再利用する人も増える。

チーム名	HANDA CITY
テーマ	半田の空き家をバズらせよう!!
目指す姿 (理想像)	全世代が空き家問題を 知り・話し・考える
現状・課題	興味がなく知らない 自分たちにどんな困り事が起きているかイメージできなく その時 どうしたらいいかわからない
政策の内容 (課題解決策)	①身近で楽しく知ってもらう PR 方法 ・ドラマ化 ・絵本化 ・プランの提示 ・金額例 ・業者リスト ・制度の広報 ・PR ②みんなの意見と困り事を共有できる仕組み ・リアルポスト・デジタルポストの設置 ・SNSの開設
政策の効果	空き家に関する情報が楽しく自然と 目に入ってくる

グループ名	だし丸くん
投票数	3票
テーマ	街のフリー素材の宝さがし
目指す姿(理想像)	・温故知新→地域の繋がりで解決 ・自分たちで街をつくる
現状・課題	周囲の人にとって空き家かどうかわからなく対策につながらなく、関心が薄く知るきっかけがないこと、持ち主の地元離れが課題。
政策の内容 (課題解決策)	空き家の特定を目的としたウォークラリーを実施 ①ポジティブなイメージとし、空き家問題の認知度を上げる ②地域や世代を超えた交流をつくる ③子どももできるようなゲームなどを通じて専門家から空き家について学ぶ ④店舗やデイサービス等の空き家活用の選択肢を知る
政策の効果	空き家対策の活動にポジティブイメージを持ってもらい、市民の第一歩に繋げる。

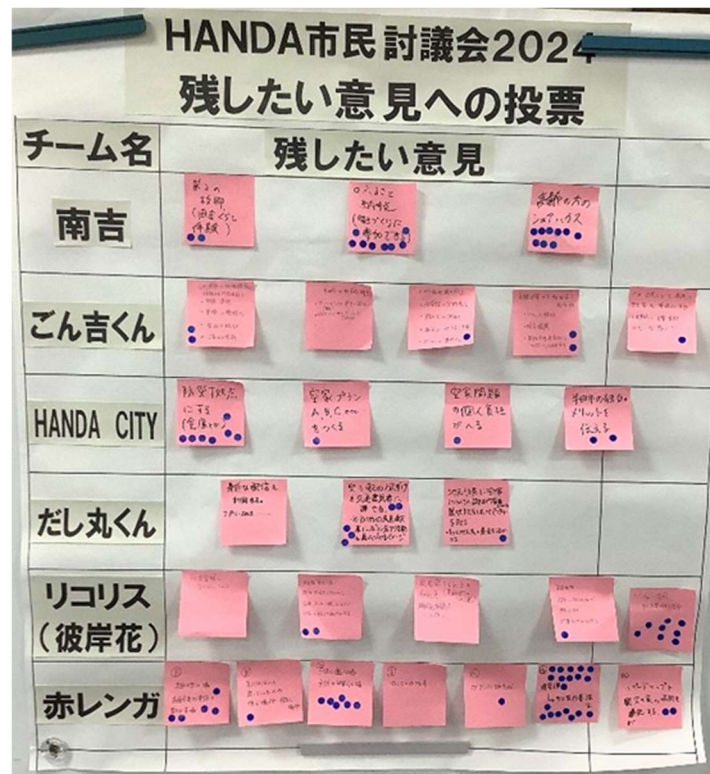


グループ名	ごん吉くん
投票数	3票
テーマ	空き家の増加を防ぐため、魅力を向上する
目指す姿(理想像)	半田市の魅力を高めて空き家の増加を減らす。
現状・課題	半田市に空き家が年々増えている、若年世代の流出がある。
政策の内容 (課題解決策)	①時間帯本数を見直し、公共交通機関の利便性の向上 ②小中学校で魅力発信コンテストを行い、各学校で代表者が発表し、順位を付ける。 ③空き家を活用して子ども達が集まるコミュニティ設備をつくる。
政策の効果	子育て世代の転出を防止し、新たな世帯の転入を増加させる。

チーム名	ごん吉くん
テーマ	<u>空き家の増加を防ぐため</u> <u>魅力を向上する</u>
目指す姿	半田市の魅力を高めて 空き家の増加を減らす
現状・課題	半田市に空き家が年々 増えている 若年世代の流出がある
政策の内容	① <u>公共・交通機関の利便性</u> <u>向上</u> 時間帯本数の見直し ② <u>小・中学校で魅力発信コンテスト</u> 各学校で代表者が発表し 順位を付ける ③ <u>子どもコミュニティの拡充</u> 空き家を活用してコミュニティで 使用できる設備を作る
政策の効果	子育て世代の転出を防止し 新たな世帯の転入を増加させる

「残したい意見まとめ」

南吉	◆高齢の方のシェアハウス（10 票） ◆ふるさと納税（街づくりに参加できる）（8 票） ◆第2の故郷（田舎くらし体験）（2 票）
ごん吉くん	◆公共交通の利便性向上（名古屋まで時間短縮）・特急、準急・単線→複線化・東西の移動・JR⇄名鉄（2 票） ◆単独世帯から多世帯居住へ・リフォーム補助・税金優遇・新規単独世帯向けマイホームの抑制（2 票） ◆小・中学校の魅力向上・体育館の空調導入・運動場の照明・施設の地域活用・プールの室内化（1 票） ◆半田市の知名度向上・オリンピック選手の輩出（育成）・×××ランキングTOP10入り ◆市が企業などと連携して空き家を明確化する（交通事故の目撃情報みたいな感じ）
HANDA CITY	◆防災拠点にする（倉庫とか）（7 票） ◆半田市独自のメリットを伝える（2 票） ◆空き家プランA、B、C・・・を作る（1 票） ◆空き家問題の個人負担がへる（1 票）
だし丸くん	◆空き家の片付けを交通違反者に課せる（アメリカの交通違反者にボランティア活動を義務付けるイメージ）（6 票） ◆地元住民に空き家についての詳細内容についての選択肢を付けてアンケートを取る→もっと地元民の意見を活かせる（1 票） ◆身近な配信を利用する（アプリ・SNS・・・）
リコリス	◆ベンチャー活用・空き家の利活用（8 票） ◆相続登記時に処分方法をヒアリングし、活用・処分に困っている人にアプローチする仕組みを作る（2 票） ◆単身世帯に個別に家の処分が決まっているか調査アンケートを行う（1 票） ◆地区全体のリノベーション ◆家を空けるとき（高齢者施設への入居）の手続き・相続手続きへの介入
赤れんが	◆建築課→空き家対策課（室）（19 票） ◆子供の遊び場・子供の学習する場（6 票） ◆趣味の場・高齢者の身体を動かす場（5 票） ◆ハザードマップに空き家の場所を明記する（2 票） ◆身よりのない人、困っている人の住む場所・働く場所（1 票） ◆ボランティアの育成（1 票） ◆マルシェの活用



(2) 提言内容

討議の結果について、グループごとの提案の投票結果を考慮して、上位4位の提案を基に次のとおり提言として取りまとめ、令和6年11月5日に半田市長に対し提言した。



(写)
半田市政に関する提言書

令和6年9月29日に開催いたしました「HANDA市民討議会 2024」において討議された意見等を取りまとめ次のとおり提言いたします。

討議テーマ

『知っていますか？空き家問題

～みんなで考えよう、空き家を増やさないためにできること～』

課題整理

空き家問題を解決するための課題を次のように考えています。

◆意識の不足

空き家に興味がなく、当事者意識がない。

◆情報の不足

相談先、処分費用や方法、所有者が誰か、活用方法がわからない。

◆家を手放せない

個人の状況や、思い入れがあり手放せない。

空き家に関する情報を広く市民が知り、市民が考える場をつくることにより、当事者意識を高め、空き家の予防や活用につながり、まちの活性化につながると考え、提言します。

1. 情報の周知と共有

ドラマ化や SNS 等での情報発信、地域での勉強会や学校教育に取り入れる等、空き家の問題点や管理の必要性を周知することで、市民の意識を高める。

市民が空き家について考える機会を創出することや、空き家情報や解決事例を投稿できるポスト、SNS 等で市民の困り事などを共有する仕組みを作る。

2. 活用する仕組みづくり

空き家を用途別にシェアしたり、家を処分したい人と利用したい人とのマッチングする機会を増やすことで、空き家の活用につなげ、管理不全空き家としないようにする。

3. 体制強化

空き家に関する相談窓口をわかりやすいものとし人員等体制の充実を図る。また、対策月間を設け、所有者への支援や広報強化などの対策を集中的に行う。

令和6年11月5日

半田市長 久世 孝宏 様

HANDA市民討議会実行委員会
委員長 平林 樹明

5. 「HANDA市民討議会 2024」の次回に向けた検討事項

以下に記載のアンケート結果等から、今回の市民討議会については、概ね順調に進行ができたと考えるが、話し合いが進みづらいグループもあったため、グループごとに中間発表を行い、各グループの進捗状況を知ることにより、その後の討議が進んだ。また、参加者とテーブルファシリテーターが、一緒に昼休憩をとることにより、グループ内の雰囲気がよくなり討議が進んだ。

事前勉強会では、質問が多くあり、グループワークの時間が取れなかったため、次年度以降の質問の仕方を検討する必要がある。

(1) アンケート結果

◆事前アンケート

Q1. 討議会への参加動機を教えてください

1. 市民討議会に興味深かった	14	17%
2. テーマに興味深かった	19	23%
3. 日程的に都合がよかった	7	9%
4. 市のために協力したかった	10	12%
5. 市民の役割として大切だと思った	7	9%
6. 新しいことにチャレンジしたかった	12	15%
7. 紙が届き参加しなければならないと思った	9	11%
8. 日頃から市に言いたいことがあった	2	2%
9. その他	2	2%

【その他意見】

8 年ぶりに地元に戻ってきて、半田市がどのような地域でこういった取り組みをしているのか知りたいため。

テーマに興味があった参加者が最も多く、次に市民討議会に興味があった、新しいことにチャレンジしたかった、市のために協力したかったという参加者が多かった。

Q2. 今回のテーマ「空き家問題」に対してどの程度関心がありますか

1. 非常に高い	8	19%
2. 多少高い	19	45%
3. どちらともいえない	13	31%
4. あまりない	2	5%
5. 全くない	0	0%

◆当日アンケート

1. 市民討議会の運営についてお聞かせください

Q1. 市民討議会の運営について、感想や印象をお聞かせください

	1. そう思う		2. どちらかといえばそう思う		3. どちらともいえない		4. どちらかといえばそう思わない		5. そう思わない	
市民討議会に楽しみながら参加できましたか	19	68%	8	28%	0	0%	1	4%	0	0%
進め方に関する説明は十分だと思いましたか	17	60%	5	18%	4	14%	1	4%	1	4%
アイスブレイクで話しやすくなりましたか	17	61%	6	21%	2	7%	2	7%	1	4%
事前勉強会で、討議がおこないやすくなりましたか	10	43%	10	43%	0	0%	2	9%	1	5%
討議のテーマは、話しやすかったですか	9	32%	5	18%	9	32%	3	11%	2	7%
討議を通して自分の考えが深まりましたか	17	61%	9	32%	0	0%	2	7%	0	0%
グループ発表は、全員の意見が十分反映されていましたか	18	64%	6	21%	3	11%	1	4%	0	0%
グループ発表で、他のグループの提案内容がわかりましたか	14	49%	11	39%	1	4%	1	4%	1	4%
グループ提案に投票を行い、上位3つを選ぶ方法はよいと思いましたか	10	36%	9	32%	6	21%	3	11%	0	0%
市民討議会は市民の声を反映させるのに有効な手法と感じましたか	20	49%	11	26%	9	21%	1	2%	1	2%

初めて参加する市民が、討議会の目的を理解し、テーマについて一定の知識を得た上で、参加者同士が討議しやすくなるように、事前勉強会や討議についての説明の実施、討議前のアイスブレイクや討議をグループごとの少人数での実施等を行った結果、今までに興味がなかった参加者もテーマへの理解の深まりがみられ、話し合いのしやすさ、討議や発表の方法等について概ね良好な感想が得られた。

Q2. グループごとの話し合いは、円滑に進みましたか

1. 円滑に進んだ	22	79%
2. やや円滑に進んだ	5	18%
3. どちらともいえない	1	3%
4. やや行き詰まったときがあった	0	0%
5. 何度も行き詰まった	0	0%
6. その他	0	0%
未記入	0	0%

【自由記述】

(運営)

残したい意見が良かった。

投票が少し厳しい。2票くらいあっても良い。

やり方や問題点の出し方が悪い。

(グループ)

主となる人に任せっきりになってしまった。

グループ内に率先して話してくれる方がいたので助かった。

” こうしたい ” という意見がある人がグループにいないと進め方が難しくなる可能性があった。

難しいと感じたが、最終楽しく参加できた。グループ人数も5人＋ファシリテーター、年齢幅も上手にバラけていて色々な意見で一つになれた。

ルール、人数、ファシリテーター、グループの方々、みなさん協力的で話しやすかった。思いつくまましゃべってただけで、結論もなく申し訳なかったが、まわりのみなさんが円滑に進めてくれた。

チームの人数を補充していただいたのが良かった。

(ファシリテーター)

ファシリテーターのサポートと、グループメンバーの協力的な参加で、自分の意見を伝えつつうまくまとめていくことができた。

ファシリテーターがいることで、より円滑に進んだ。

ほとんどの参加者がグループの話し合いが円滑に進んだと回答しており、グループの人数やファシリテーターの進行、投票方法等について意見がでた。

Q3. 市民討議会ではじめて顔を合わせる市民との会話について、どのように感じましたか（複数回答可）

1. さまざまな考え(発想)が聞ける楽しさ	25	41%
2. さまざまな世代の意見が聞ける楽しさ	23	38%
3. 同じ半田市民としての共感や連帯感	8	13%
4. はじめて会う人との会話における抵抗感	2	3%
5. 意見を言うのになれておらず、話しにくい感じ	0	0%
6. その他	3	5%

【その他意見】

相手の話をじっくり聞いてくれて、初めて会う市民の方だからこそ率直に意見が言えることもあると思う。

さまざまな世代の意見や考えが聞ける楽しさを感じた参加者が多く、全体として前向きな感情を抱く参加者が多かった。

Q4. 事前勉強会（8/17）の開催時間についてどのくらいの所要時間が望ましいと思いますか

1. 1時間程度	1	3%
2. 2時間程度	9	22%
3. 3時間程度（今回同様）	23	56%
4. 4時間程度	3	7%
5. 5時間程度	0	0%
6. その他	5	12%
未記入	0	0%

【その他意見】

質疑応答の時間を十分に確保できると良い。
同様内容で今後も実施するならなくてよい。
資料配布だけで良い。

今回同様の3時間を希望する参加者が最も多く、ついで2時間を希望する参加者が多かった。

Q 5. 討議会（9/29）の開催時間についてどのくらいの所要時間が望ましいと思いますか

1. 2時間程度	0	0%
2. 3時間程度	1	4%
3. 4時間程度	5	18%
4. 5時間程度（今回同様）	16	59%
5. 6時間程度	3	11%
6. 7時間程度	1	4%
7. その他	1	4%

【その他意見】

2回に分ける。

テーマにもよるが、討議7時間、発表等3時間が良い。（2日）

今回同様の5時間を希望する参加者が最も多く、討議時間や発表時間を長くし、2回の実施を希望する意見もあった。

Q 6. 今後の市民討議会でどのようなテーマを希望しますか

（半田市活性化）

半田市の魅力発信、全国ランキングトップ10を目指して

高齢化や若者の減少対策

子育て、働き世代の働きやすさ（半田市の活性化つながる）

（子育て）

地域全体で子育てできるようなテーマ

子育て、働き世代の働きやすさ（半田市の活性化つながる）※再掲

子育て世代への優しさ（幼稚園バス、小学生への配慮）

（交通）

通勤時間の渋滞緩和、渋滞問題

運転免許返納を前提にした公共交通のあり方

公共交通

（自治区・地域）

自治区の役割

（コミュニティ・祭り）の維持・自治区活動（コミュニティ・祭り）の維持

（その他）

地域産業、工業、工芸の振興について（黒字倒産などがあるなら、ビジネスのリデザインなど）

新体育館
スポーツ離れ
人権問題
ごみ問題
高齢化社会の福祉
学校教育以外の教育（共助、伝えるべきもの、つながり）
大きな問題ではなく、そこから振り分けた問題

Q 7. グループの提案を提言としてどのように取りまとめたらよいと思いますか

（全て提言）
全グループの意見・提案を提言とする。（3人）
（順次付け）
投票で1位を選ぶ、同様の方法でよい。（4人）
1つだけだと自分のグループばかりになるため、2つ選ぶとよい。
前回効果がでていいるなら同様の上位3位まで。
投票で順位をつけることはよい。（2人）
（類似意見をまとめる）
類似する意見はまとめて提言する。（3人）
投票で1位を選び、似かよった別の案も含め提言とする。
似ている意見を共有してよりブラッシュアップする。
（その他）
部門を設けてもよい。アイデア賞、市長賞、市の担当者賞等。自分のグループには投票できない方がよい。
いくつかのテーマで分類。例として、「斬新」「簡単（難易度が低い）」「保守的」など。
専門家、市長などは票を多く持って投票するとよい。素人の人気投票にならないような実現できる案が採択されるようにするとよい。提案時の主要メンバーにあらためてより具体的に提言してもらう機会を作ってもよい。
方法を見直した方がよい。

2. 意識の変化等についてお聞かせください

（1）市政への関心について

Q 1. 市民討議会に参加して、市政への関心が高まりましたか

1. 非常に高まった	14	34%
2. 多少高まった	20	49%
3. どちらともいえない	5	12%
4. あまり変化しない	2	5%
5. 変化しない	0	0%

8割を超える方が市政への関心が高まったと回答した。

Q2. 今後、まちづくりにどのように参加(行動)したいと思いますか(複数回答可)

1. 自治区活動	9	14%
2. NPO、ボランティア活動	16	25%
3. 計画策定の委員等として参加	7	11%
4. 市議会等の傍聴	8	13%
5. 自分の考えを市に伝える(パブリックコメント、市長への手紙等)	13	21%
6. 参加しない	2	3%
7. その他	8	13%

【その他意見】

時間とタイミング、自身に直接関わりそうな事に参加したい
/楽しく参加できるもの/内容による/教師として教育の面から
/子供の手がはなれたら/副業を通じて地域に参加/現状は不明

多数の参加者がまちづくりへの参加に対して積極的で、ボランティア活動など取り組みやすいものへの参加意欲が伺える。

Q3. 今後、市民討議会実行委員会に参加したいと思いますか

1. 参加したい	17	40%
2. 参加したくない	20	48%
未記入	5	12%

(2) 空き家に関する問題への関心について

Q1. 空き家がもたらす問題についての関心が高まりましたか

1. 非常に高まった	20	51%
2. 多少高まった	16	41%
3. どちらともいえない	2	5%
4. あまり変化しない	1	3%
5. 変化しない	0	0%

【1. 非常に高まった】

・空き家には自分が考えている以上に問題も可能性も秘められていて当事者意識が持てた。

・今まで考えることのなかった問題を知って大きな問題となることを知った。

- ・自宅も何十年後には空き家となることを考えると、どうしていいかというイメージがわいた。
 - ・いずれ自分にも直通する事だから。
 - ・自分の家が空き家対象になることもあまり自覚がなく、参加したことで親との事前話し合い、対策、お金の貯蓄などを考えるようになったから。
- 自分がまだまだ経験するまで時間があることで、早めに意識が持てたのでそう感じた。
- ・自分にとって非常に身近な問題である為。
 - ・なんとなく知っていたが、より身近な問題として考えるいい機会になった。
 - ・自分自身の問題として考えるきっかけになった。現状を知らない人も多いと思うので、より多くの市民が情報を受け取れるようになるとうい。
 - ・現状を把握する事の重要性が高まった。
 - ・普段、空き家に気付き、良い活用法がないか考えるようになった。
 - ・まず半田の空き家について何も知らなかった。0→1になるだけでこんなに変わるのかと。
 - ・勉強会し話し合うことで多くの意見を聴き、自らの考えに取り入れたり、考えることができたため。
 - ・自分たちで考えをまとめあげたので理解できた。
 - ・近くに空き家があるから。
- 【2. 多少高まった】
- ・自分には思いつかない多種多様な問題を確認することができた。
 - ・全国的にかなり問題視されている為。テーマとしてはタイムリーだと思った。
 - ・空き家の全てが問題になっているわけではないと考えるが、実害が出ている空き家がある点については認識した。
 - ・身近な問題として捉えられるようになった。
 - ・いずれは自身にふりかかってくるから。今後の自分（親の家）等で考える機会となった。
 - ・空き家問題といっても非常に幅広い問題があり、講義を通してそれらの問題を多角的に知る事ができた。
 - ・今回の参加で勉強できたから。
 - ・身近に空き家がなかったが、今回の勉強会で実はたくさんあること、問題になっていることを知れたため。
 - ・元々関心のあるテーマなので、半田市の取り組みや現状を知れた点と、空き家についてとても理解が深まったから。
 - ・普段学校などでは学べないものだから、こういう機会があったおかげで初めて詳しく知ることが出来たため。
 - ・市役所の人が大変だと思った。
- 【4. あまり変化しない】
- ・もともと空き家問題については、理解していたため。あまり新しい発見はなかった。

9 割を超える方が空き家に関する問題について関心が高まったと回答した。

Q2. 空き家がもたらす問題を解決するために行動しようと思いますか

1. 積極的に行動しようと思う	8	21%
2. できれば行動しようと思う	20	51%
3. どちらともいえない	11	28%
4. あまり行動しようと思わない	0	0%
5. 行動しようと思わない	0	0%

【1. 積極的に行動しようと思う】

- ・空き家問題は周知することが問題解決する上で効果的であり、大切だと感じたため。
- ・まずは自分の身内から制度や問題を伝えて、問題だと意識を持ってくれる人を1人でも増やしていけたらと思う。
- ・半田在住ではないが祖父母がそれぞれ離れて暮らしている。手遅れになる前に話し合ったりしようと思ったから。
- ・自分にとって身近な為。
- ・もしボランティア活動があるなら参加しようと思っている。そうやって参加することによって一步一步進んでいくと思う。
- ・ゆくゆくはケアマネとして地域福祉により深く関わりたいと考えていたので、実態を行政に反映できるような活動をしていきたい。
- ・非常に市の環境が悪くなるのを防ぎたい。
- ・ニーズとマッチしていないと感じた為。

【2. できれば行動しようと思う】

- ・自分の家族や親せきの問題については、話し合っていきたいと思います。
- ・知り合いにも話し合いたい。
- ・1人ではできないことが多いので、ボランティアを組織できたらやりたい。
- ・イベント等に参加したい。
- ・現状は、市民ひとりひとりで参加できるような空き家問題解決の活動が少ないので、今後増えてきたら参加していきたい。
- ・近くに悩んでいる人がいたら、相談先などアドバイスしたいと感じた。
- ・名義変更などめんどくさいことはやれるうちにやろうと家族でも話し合ったため。
- ・不便を感じている方がいる現状を知った為。
- ・10年後建築分野の労働環境改善に取り組みたいと思っているので、その業界に大きく関わる空き家について、リアルな知見を深めたいから。
- ・時間とタイミングがあれば。

【3. どちらともいえない】

- ・自分に何ができるか。どうすれば良いのか具体的に今は分からない。
- ・規模が大きすぎて個人の力ではなかなか対応が難しい。
- ・不動産なので、取り組むにしても、個人では費用の問題が大きすぎる。
- ・やはり個人の権利が優先される。

7割の方が空き家問題を解決するための行動意欲がみられる。

Q4. 今後、半田市が行う空き家対策の取組に関するアンケート調査などのご協力を依頼する際に、市民討議会参加承諾書等でいただいた個人情報（住所、氏名、電話番号、メールアドレス等）を利用させていただくことにご承諾いただけますか

1. 参加したい	34	89%
2. 参加したくない	4	11%

3. その他

市民討議会全体について、ご意見、ご感想をご記入ください

【全体】

- ・自分の意見が出しやすく、思いもよらない新しい考えにも出会えてとても良い経験ができた。
- ・貴重な機会をいただきありがとうございました。市の活動には全く興味がなかったですが、多少なりとも興味が出てきました。実行委員のみなさまお疲れ様でした。
- ・直接市民の意見が反映されやすいのが良い点。一生懸命考えた意見は大事にされやすいのも参加者のモチベーションとなるし、より良い半田市になれば良いと思う。
- ・初めてお会いする方たちと意見をまとめていけるのか、不安な気持ちもありましたが、様々な意見や経験を聞いて、意見交換できたのはよい経験になりました。
- ・予想していたよりもはるかに楽しく、有意義な時間でした。
- ・色々皆さんの考え等知れて今回参加できてよかったと思います。
- ・非常に勉強になりました。
- ・このような討議会があるのはとてもいいことだと思います。参加できて楽しかったです。とても話しやすく、意見が言いやすかったです。いろんな人が今後も参加できるといいなと思いました。
- ・このような場を開催いただきありがとうございました。この場をきっかけに半田市について考えるきっかけをいただきました。
- ・最初は知らない人が多いので、緊張しましたが、みんなが同じテーマについて考えることと、話し合いに関してルールを設けていること（相手の意見を否定しない等）で話しやすい、意見が出しやすい環境でした。発表資料の作成では、グループが一丸となって取り組みましたし、時間の経過があっという間だったなと感じました。
- ・いろいろな意見から困り事の共通点が知れる。解決策は色々だけれども、糸口が見えることは参加して良かったことです。
- ・台風の影響で日にち変更にも関わらず参加者がそれなりに来てくれて発表できたことがすばらしい。”南吉”のメンバーも19～65歳までの年齢差で一つになって話し合いができたことがうれしかった。
- ・とても良い取り組みだと思いました。発表でアピールしきれなかったことについての補足。残したい意見としてベンチャー活用と書きましたが、県でも取り組んでいるベンチャーの活用により、空き家の再利用の仕組み作りが

出来ると、成功した場合に他の自治体への売り込みも出来るため、投資も見込めるのではないかと思います。

・赤レンガチームについて：非常にまとまっていて明るく且つ意見やまとめる力、考える力があるチームだと思った。後半、私はよく内容がのみこめず足手まとい（時間ロス）につながる点がありましたが、どなたにも文句を言われませんでした。感謝致します。

他チームについて：時間制限がある中で最後のまとめも丁寧に書かれていて、且つ面白いアイデアや、他とは違う視点のアイデアがありました。双方、とても学んだことがあり、勉強させて頂きました。ありがとうございます。

【運営】

・ファシリテーターの方を各チームに設けてくださったことで、とても和やかな雰囲気になりました。重ねてお礼申し上げます。お菓子、飲み物を用意してくださったこと、討議会を運営してくださった皆さんもありがとうございます。

・せっかく興味関心が高い人は高いというテーマだったので、参加メンバーはまず公募からの抽選でも良かったのではと思いました。たまたま意見を持っている方が集まってくださったので、楽しく有意義な話し合いができました。せっかく提言としてとりあげて下さるくらいの意味合いがあるのであれば、もっと意見を伝えたい人の意見をくみとって下さっていいのかなと思いました。

・ざっくばらんな意見交換ができて楽しかった。紙でも良いがパワーポイントで発表でも良かったのではないかな。

・発表資料の作成時間が短かったほか、1枚の紙だと数人で作りにくかった点が気になりました。ただ、全体としてはさまざまな考えが聞けて非常に勉強になりました。また、ファシリテーターの方のおかげで話がスムーズに進行したのでその点も助かりました。

・仕方がない事ですが、台風で勉強会と本番が離れてしまったことで、ほとんど内容を忘れてしまいました。本番が初参加の人もいたことですし、少し振り返りの時間をとってもいいかなと思いました。

・課題が漠然としていてはじめは難しく、グループでは不満もありましたが、考えることを重視するという意味でこれで良いと思います。反面で、検討のアウトプットがもやとしたものになるというジレンマがあるかなと思いました。

・参加者を無作為に選びたいとは思いますが、いきなり郵送で送ってよいものか、市は個人情報を持っている訳でそこは気になります。市の職員以外に名前が知れているのです。まずは市報等で参加希望者を募ってはどうか。あとは、市の窓口で来た人に配る（案内を）とか、案内を送られて来た側としては市のために何かしたいと思うので参加しましたが、もっと自ら参加して強く意見を言いたい人もいます。ここで集まったメンバーの意見＝市民の声とはならないと思います。

・今回の”空き家問題”は分かりやすいが凄く難しいテーマだと感じた。市民や空き家所持者に依存されていて、市町村で何かできるのか考えるのが難しかった。解決策や制度など、どの程度までまとめるかも明確ではなく、分からなかった。

- ・第1回の時の意見をしっかりと話し合っ反映した方が良いと思います。「討議会を行う」というふうにしかなえない。ムダが多すぎる。アイスブレイクいらない。説明不足。延期時の対応不足。延期の期間が長すぎる。アプリで使える人はアプリで入力した方が。紙がムダ。

【事前勉強会のみ参加】

- ・進行がとてもスムーズでストレスなく参加できました。グループの話し合いの際は、グループに一人進行役の方がいると話しやすいかと思います。
- ・討議会の日付が変更になったため、事前勉強会にしか参加できなかったが、有意義な時間が過ごせました。ありがとうございました。
- ・台風で急な日程変更残念です。
- ・台風の影響で日程が合わず2回目には参加できなかったが、市政がどのような活動をしているのか非常に興味があったので、参加して半田市としての取り組みがしれて、良かったです。今後も何かあれば参加したいです。
- ・最初の資料をもう少しだけ詳しいものがあつたほうが良いと思います。
- ・事前勉強会だけの参加だったが、「とりあえず役所に相談してくれ」という役所側のアナウンスは、自身も組織人だが非常に疑問だった。責任も出来る範囲も限られる中、いささか無責任すぎるのでは？と感じた。自信も中古不動産をいくつか触ったことがあるが、業者※と個人（持ち主、買い手）をいかに繋げるかが重要で、そのための支援を自治体がすべきだと感じる。※難しい不動産を扱える不動産屋だけでなく、リフォーム、修繕などは一人親方の職人さんなら有名な会社に比べれば安くできる。
- ・まずはご担当者様の勉強不足を認識していただいたかと思い、そこに関して前進したかとはおもいます。

6. 実行委員感想

昨年、SDGS に関する市民討議会に参加させて頂き、今年は実行委員にてサポートさせて頂きました。テーマが空き家問題ということで、とてもハードルが高かったのですが、市民の方々が自身の問題と捉え、方向性を見出し、解決しようとするその姿は、半田の未来が明るくなる光景に見えました。自分たちの街は自分たちで良くしていく、継続的にこの活動を市民に浸透させて行けたらと切に感じた次第です。

(新美 直樹)

取り上げたテーマが空き家問題であったため、世代や地域によっては関心が薄かったかもしれません。しかし、天候の影響で日程が変更されたにもかかわらず、多くの市民の方々にご参加いただきました。私自身、昨年の討議会に参加した際と同様に、討議会の魅力や可能性を感じた市民の方々が少なからずいらっしやったのではないかと改めて実感しています。テーマも重要ですが、市民討議会自体を継続していくことが、半田市の発展や市民の豊かな生活に繋がると信じています。今後の市民討議会の発展がとても楽しみです。ありがとうございました。

(中村 祐介)

昨年の討議会に参加し、今年は運営側である実行委員会に唯一の学生として参加させていただきました。若輩者である私の意見にも、市民委員や青年会議所、市民協働課の方々が真剣に耳を傾けてくださり、忌憚なく意見を発することができる雰囲気を作られていることに感激しました。

今回のテーマは空き家問題という難易度の高いもので、限られた期間で意見をまとめられるか不安もありましたが、参加した市民の皆さんが熱心に討論を重ねる姿と意見が集約された発表を提言書にまとめ、政策として実施される過程を目にし、行政と市民が協力することでより良い街づくりが実現できるのだと実感しました。

市民討議会のような取り組みを行っている自治体は少ないため、より多くの市民の皆さんにこの活動を知っていただけることを願っています。

(溝 樹輝)

台風で一部日程が変更になったものの、第2回目を迎えた市民討議会に、多くの市民の皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。

今回は参加者も応募多数で抽選となり、若い世代からの応募者も増えました。市民討議会という制度が半田市に根付き始めていることを感じるとともに、半田市民の政治への参画意識の高さを改めて実感しています。また、「空き家問題」という非常に難しいテーマではありましたが、予防という観点を中心に議論を深めて素晴らしい発表や提言を行っていただきました。

今後、市民の新しい政治参画の方法として市民討議会が発展し、半田市の課題解決につながっていくことを確信しています。

(市野 文彦)

実行委員会にて討議を重ね、日程変更はありましたが無事に市民討議会が開催できた事を嬉しく思います。討議会に参加された方の、年代・性別・置かれている環境によって異なる発言や発想がとても新鮮で、発表を聞き感銘を受けました。今後、第三回、第四回と継続して開催されて行くと思います。もっと多くの方に市民討議会を知っていただき、地域の課題解決の為に積極的に参加していただけると嬉しいです。貴重な経験をありがとうございました。

(間瀬 喜弘)

本年度も多くの方にご参加いただき誠にありがとうございました。第1回目となった昨年の市民討議会から実行委員として参加させていただきましたが、本年度は、昨年の市民討議会に参加していただいた市民から実行委員会に加わっていただくことができ、新たな視点から充実した会議を重ねることができたと実感しています。今後も様々な手法を検討しながら継続し、「自分たちの地域を自分たちで良くする」ための市民参画機会のひとつにするために一層市民の皆様には積極的にご参加・ご協力いただけますと幸いです。

(松石 陽介)

今回は「空き家」がテーマで行われた市民討議会ですが、関心がある人が限られそうでどういった会になるのかと少しハラハラした思いを抱えながら参加していました。しかし、当日になってみると市民の皆さんの熱心な議論が行われ、まとめや発表も短い時間で上手くまとめられており、皆さんの熱意に非常に感心しました。こういった意見が市政に届き、市民の声で街が変わっていく、更に市民が街に興味を持つ、というサイクルが起これば半田市に愛着を持って住む人が増え、結果それが空き家問題の解決にも繋がりそうです。私自身もNPO法人を運営しているので、こういった多くの人の意見、力を借りるという事を自身の活動に活かし、半田市にまたお返ししていきたいと思います。参加者や実行委員会の皆様ありがとうございました。

(新美 成果)

題されたテーマに市民の方に考えてもらう事が出来るこの討議会の存在意義を深く必要なものと感じることができました。今年は台風の影響で日程変更がありましたが、多くの参加者がいたことで、半田市をより住みやすい街に市民と共に考えていけるのだと思いました。今後の市民討議会が楽しみに思えます。私も共に考え、より良くしていきたいと思いました。

(森脇 友里)